第９回エリア会議での意見要旨

【CC ラボ】

● **地元（自治会・町内会）との連携など**

・ だいぶ良い活動になってきた。まち全体のことを見ているのは町内会なので、そことのうまい関係性をどう保っていくかがポイント。（秋元）

・ 三丁目は CC ラボに近いので活動内容を知っているが、町内会活動との連携は考えていなかった。どのようにしたら良いか、役員はよく分からないと思う。（大竹）

・ 北（一丁目）と南（六丁目）の交流は CC ラボでの活動を通して成果をあげているので、CC ラボがいかに地域で継続して使えるかが大事。（松浦）

・ 北団地集会所やケアプラザの利用者は CC ラボとの連携を頭に入れながら活動している。CC ラボ・北団地集会所・ケアプラザの３つの交流拠点があることが、洋光台のまちづくりを高める考え方の一つ。自治町内会にも交流拠点での活動や考え方が広がっていくと、洋光台のまちづくりが更に高まりをみせる。（三上）

・ CC ラボや地域活動の紹介などを自治町内会などに出かけて地道に進めたい。（UR）

・ CC ラボは箱でしかない。箱以外の周辺の駅前広場をどう作り変えるか、そこでいろいろな活動ができると認識が違ってくる。例えば、町内会単位で使えるような空間がときどき出現するようなことがあるといい。（小林）

【まちの事務局について】

● **組織・事業の形・資金について**

・ どんなメンバーで行うのか、どんな事業体の形になるのかは、まだこれから。（石井）

・ まちの事務局を事業として展開しようとすると、協議体ではなく事業体としての意思決定をしなければならない。今まで UR が提供していた箱をそのまま使うことがいいのかなども検討しなければいけなくなる。（大江）

・ 大都市中心部のエリアマネジメント組織の活動に関わっているが、事務局体制・財源は今でも大問題。一部は公共事業を受託してお金を得て、その他に自主的な財源を確保する事業を展開できないかなど、同じような課題を抱えて活動している。（小林）

・ まちの事務局が事業体になるときには、活動されている人の得意分野など、どこで何を稼いで、どういう事業を NPO として展開するかが大事になってくる。（秋元）

・ 事業の枠組みは、団地で議論している高齢者・福祉・子育てなど、様々な可能性が出ている。（小林）

・ 事業内容に特徴が見えてくると良い。「夢みん」では保健・福祉分野、サロンの利用など。寿で実施している「ホステルビレッジ」を例とすると、洋光台では空室を学生やアーティストに短期間貸すなどのモデルもある。洋光台では、地域全体が元気になっていく過程を想定しながら、事業体の事業モデルを作っていく。（石井）

● **行政の支援について**

・ 行政がこういう事業体に新しい地域主体として一定の役割を置いて、一定の支援をする考え方がとれるかどうか。（小林）

・ 今まで行政は地元と町内会として付き合っているので、そうした NPO 的な活動とどう付き合うのか、どう支援していくかは、行政としての大きな課題。（秋元）
・ 高齢者・福祉・子育てなど、様々な事業の可能性がある。全くの民業として行うわけにはいかないので、市がどういう形で支援できるか、展開できるか。（小林）
・ 新しい発想で市民の方が活動され、市にはできない部分を動かしていくので、行政は一歩、二歩遅れながら動いていかざるを得ない。（秋元）
・ そういう役割をまちの事務局で担うと、一つのモデルになるかもしれない。（小林）
・ 市民活動支援センターのブランチ（金沢区・港南区、資金は市→区）があるところでは、そこがいろいろな地域活動（例えばプレイパーク）を助けたりしている。（三上）

● **広場改修による広がり**

・ 広場改修により今まで貸せていなかった２階部分が貸せるようになると思うので、そこは地域の活動を中心に少し安く抑えたり、活動を限定したりして、その一部にまちの事務局が入ってくることもある。空間の限定性を少し広く考えて、この話を受けとめていくのがいい。（大江）
・ 広場改修で２階に何戸かできたところに、まちの事務局の得意な分野の活動がいくつか出てくると、まちとして面白くなってくる。（秋元）

【次世代スタイル WG】

● **今後の展開への期待**

・ 階段室単位の防災コミュニティが非常に重要な要素。北団地（1000 世帯）では 3.11 の時に災害時の要援護者が 50 人ほどいたので、階段室単位で歩いていてパッと確認できるものが日常的にあると良いと思った。（三上）
・ NTT 東日本は Wi-Fi の技術、東京ガスは災害時にも電気を作り出せる機器の提案があるので、（防災コミュニティに）上手く取り込んでいければ。（小泉）
・ 常時と非常時の仕分けを事業的に展開できるといい。例えば、常時はエネルギーや通信、それぞれ機能しているが、非常時になるとそれが合体して違う機能を発揮するような仕組み。（大江）
・ 健康の話と防災の話は別に活動するのものだが、そこが一緒になるというヒントが幾つかありそう。例えば、ウォーキングするところが避難経路になっているとか。（中村）
・ 既存の技術を引っ張り出して洋光台のまちにうまくフィットさせたり、企業をコラボさせることで、新しい技術的なイノベーションを開発し、それを企業側のメリットにしてもらうなど、そういうことをうまくやっていきたい。（小泉）

● **地域活動にも活きるファンディングスキームについて**

・ 実際に地域で動かしていく際に、企業がお金を出して事業を展開するハード面がある一方で、資金的に不足している地域の活動団体があるなど、（ソフトとハードが）偏っているように見える。ソフト面にお金を出す地域ファンドを設立して、そこからお金を供給しながら、ハードと一緒になって展開していくような、新しいファンディングのスキームがあるといい。これから長く続けていく中で検討いただければ。（大江）

・ 個々の企業が、個々の企業の枠組みの中で動かすのではなく、パッケージ化して新しい動きを出すためには、そういう仕掛けが必要かもしれない。（小林）
・ 大都市では 100 円のうち１円が地元の活動資金になる自販機が結構ある。そういった自販機を提供している企業とコラボできると一定の資金源になる。今の枠組みではできないようだが、将来的にこういう企業とコラボしたいという提案があってもいい。（小林）

【交通関係】

●交通実態調査結果（速報）について

・ 駅前広場の利用全体を見直す場合に交通の部分で本当に必要なものを議論するための基礎的な数値の土台が出てきた。この先（の分析）も研究室で続けていく。（中村）
・ 何十年も疑問に思い、何とかせねばと考えていたことが、初めて数値化されて目に見えるようになり、半分満足してしまった。今後もよろしくお願いします。（柿木）

● シェアリング実証実験について

・ 地区の皆様から可能性は？と議論に出ていた（自転車・車）シェアリングについて、一定の期間について実験をする用意は研究室として出来ているので、これから地域に入って具体的な進め方を詰めていくところ。（中村）
・ 実験予算は今年度だけなので、実験後どうするかは相談させて欲しい。（中村）

【その他】

・ （多世代居住推進・コミュニティ拠点づくりについて）活動の成果は次回のエリア会議でご紹介ください。（小林）
・ 多世代近居が一つのテーマになっているので、洋光台エリアにサ高住のような施設を検討してもらいたい。（大竹）

以　上